

# H i b ワクチン接種について

～予防接種に欠かせない情報です。必ずお読みください。～

## インフルエンザ菌b型（H i b）による感染症について

細菌性髄膜炎は、脳や脊髄を覆っている髄膜に細菌が感染して起こる病気で、その原因の60%を占めているのが「インフルエンザ菌b型」という細菌で、略して「H i b（ヒブ）」と呼ばれています。H i bは、冬に流行するインフルエンザウイルスとは全く別のものです。

H i bが原因として報告される細菌性髄膜炎患者の年齢分布は0歳が53%と最も多く、0～1歳で70%以上を占めており、そのピークは生後8ヵ月で、6歳以上は極めて稀です。

細菌性髄膜炎の初期症状は発熱、嘔吐、けいれんなどで、急性呼吸器感染症や他の疾病と症状が似ているため早期診断が難しい病気です。H i bによる細菌性髄膜炎は、治療をうけても約5%の乳幼児が死亡し、約25%がてんかん、難聴、発育障害などの後遺症が残ります。また、近年では抗生物質の効かない菌（耐性菌）も増えてきており、治療が困難になってきています。

その他にもH i bは、敗血症、咽頭蓋炎、肺炎などの重篤な全身感染症を引き起こします。

## インフルエンザ菌b型（H i b）ワクチンとは

- (1) H i b ワクチンは、広く世界で使用されていますが、わが国では平成20年12月に使用が始まりました。H i b ワクチンは、4回の接種を受けた人のほぼ100%に抗体（免疫）ができます。
- (2) このワクチンは、製造の初期段階に、ウシの成分（フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分）が使用されていますが、その後の精製工程を経て、製品化されています。また、このワクチンは世界100カ国以上で使用されていますが、このワクチンの接種が原因で、T S E（伝達性海綿状脳症）にかかったという報告はありません。

## ワクチンの接種間隔について

H i b ワクチンの接種回数は、はじめて接種する月齢によって接種回数が異なります。

接種開始の月齢	接種回数	接種スケジュール
2か月以上～7か月未満	4	・初回免疫として4～8週間の間隔で3回接種 ・3回目の接種後おおむね1年の間隔で追加免疫として1回接種
7か月以上～12か月未満	3	・初回免疫として4～8週間の間隔で2回接種 ・2回目の接種後おおむね1年の間隔で追加免疫として1回接種
1歳以上～3歳未満	1	1回のみ接種

## 他の予防接種との間隔

- (1) ジフテリア・百日せき・破傷風混合ワクチン（DPT）、日本脳炎、インフルエンザなどの不活化ワクチンを接種した場合は、6日間以上あけてからH i b ワクチンの接種をしてください。
- (2) 麻しん風しん混合（MR）、ポリオ、BCGなどの生ワクチンを接種した場合は、27日間以上あけてからH i b ワクチンの接種をしてください。
- (3) H i b ワクチンの接種後、他の予防接種をする場合は、6日以上あけてから接種してください。
- (4) 医師が必要と認めた場合には、他のワクチンと同時に受けることができます。

～～～ 裏面もご覧ください ～～～

### 次の人は接種を受けることはできません

- (1) 明らかに発熱のある人（37.5℃を超える場合）
- (2) 重篤な急性疾患にかかっている人
- (3) このワクチン成分または破傷風トキソイドによって、アナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）を起こしたことがある人
- (4) その他、医師に予防接種を行うことが不相当と判断された人

### 次の人は接種前に医師にご相談ください

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある人
- (2) 過去に予防接種で接種後2日以内に全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた人
- (3) 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人
- (4) 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある人、もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる人
- (5) このワクチンの成分または破傷風トキソイドに対してアレルギーをおこすおそれのある人

### 接種後の副反応について

平成12年～平成14年にかけてわが国で行われた臨床試験では、局所反応として発赤（44.2%）、腫脹（18.7%）、硬結（17.8%）、疼痛（5.6%）、全身反応として、発熱（2.5%）、不機嫌（14.7%）、異常号泣（0.8%）、食欲不振（8.7%）、嘔吐（5.6%）、下痢（7.9%）、不眠（9.8%）、傾眠（4.1%）などが認められました。

副反応のほとんどは接種後2日までに発現して、その後3日以内には処置を必要としませんでした。また、複数回の接種においても、副反応の発現率が上昇することはありませんでした。

### 接種後の注意

- (1) 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- (2) 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師に診察を受けてください。
- (3) 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったことなどは医師にご相談ください。
- (4) 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。
- (5) 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

### 予防接種による健康被害救済制度

伊佐市が業務委託する医療機関においてこの予防接種を受け、健康被害が生じ、その健康被害が予防接種を受けたことによるものであると認められた場合は、次の救済を受けることになります。

- (1) 「伊佐市予防接種事故災害補償規則」に基づく救済
- (2) 「独立行政法人医薬品医療機器総合機構法」に基づく救済

**（お問い合わせ先） 伊佐市役所 健康増進課 健康推進係 TEL：23-1311**